



NIPPON BEARING

## 8月23日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 注目されるスマート農業、次のうち正しくないものはどれ？

- ① ドローンによる農薬散布    ② 自動走行農機    ③ 天候コントロールロボット

【答え】 ③ 天候コントロールロボット

### 【解説】

近年、注目されるスマート農業とは『ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業』のことです。

日本では年々、農業従事者の減少・熟練農業者の高齢化による労働力不足が深刻化しています。これらの問題を解決する糸口の1つとして、スマート農業の導入が促進されています。

農業用ドローンによる農薬散布は、労働負担の軽減・作業時間の短縮につながります。加えて、作業者は離れた場所からドローンを操作可能なため、農薬を浴びる心配が軽減します。農薬散布以外に生育状況のデータ収集などにも利用できますので、活用方法の発展が楽しみです。

自動走行農機は、作業内容によってさまざまなタイプのもので開発されています。耕うん機・播種機・田植機・草刈機・収穫機・複合機（複数の作業ができるもの）等々、作物に適した自動走行農業機械があります。

天候をコントロールすることはできませんが、天候によって左右されるデータを収集・分析する管理システムがあります。水田の水位データから遠隔操作でバルブを開けて給水するシステム、ハウス栽培で日射量などのデータから液体肥料を自動供給するシステムなどが開発されています。

その他、熟練農業者が保有している技術・判断の継承のためにも、先端技術が活用されています。スマート農業は、生産性の向上と人手不足の解消のみならず、《熟練の技という財産》を未来へと繋いでくれる希望の農業なのかも知れません。

※「スマート農業」農林水産省 Web サイト (<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/>) 参考

【企画・協力：(株)学研メソッド】